

檜町役員等説明会会議録

平成27年4月4日 午後6時～8時20分 場所：檜町公民館

市側出席者：並河市長、山中公室長、川口特命参与、井上課長

資料を市長が説明

檜 町：土地改良区の理事長です。今、市長から細かく説明して頂いて中身、内容についてはよくわかりました。檜川の上流でこのような廃棄物の施設を造るという事は、汚染が一番心配になります。それと、この今予定している谷の水は、雨水、雨降った場合、一番利用する場所なんです、農家にとって。このような白川の水の豊富な谷の、池も沢山あるし、新鮮な水で農業出来る場所としては、一等地のいい環境の整った場所です。廃棄物の処理場というのは、又他の所で考えて頂いたらどうかなど。

天理市：これはごみ処理施設でして、いわゆる産廃施設のような形でそこに物を埋めるというような場所ではないと。

檜 町：今聞いてやっぱり汚染言うのが一番心配します。

天理市：はい、そこについては、今申し上げましたように、空気にしても、水にしても、汚染という物は発生する施設だというふうに、私共は捉えていない訳です。

檜 町：発生しない、そんな保証もないし。

天理市：それを、環境評価という形でしっかりとやらないと建てられない・・・。

檜 町：もうちょっと他所で考えてもらったらどうですか。そういう安全やいう事、言わんねやったら、もっと他所へ予定地を考えてくれはったらいい。

天理市：それが・・・。

檜 町：この場所は絶対に、檜としては、土地改良区としては反対します。

天理市：それについては、申しましたように、地権の関係であったり、あるいは周りから持ってくる等を考えると、やはり我々として、用地を確保出来る場所がここ以外に、現実の選択肢として難しいという状況でございまして、なので皆さんにご理解を今、求めているという状況でございます。

檜 町：それは、市の勝手な憶測での考えですやろ。もっと他の場所も考えてもらったらええと思いますよ。

天理市：他の所も検討させて頂いたんでございますけど・・・。

檜 町：どうしてもここでやはり、環境というのが一番ええ所ですし、水の豊富な、綺麗な水の所ですので、檜だけと違います。郡山市も、檜川沿いの田畑、奈良県の一番農業の発展するような所です。檜川沿いは、また、檜川というのは8月の雨の降らない時は、ほんまに水の綺麗な川ですねん。そんな所で、上で燃やされて、ここに書いてある有毒な物が下へ落ちて、又雨で流れる。川へ流れ込むと困りますので。

天理市：流れ込む場合は、建てられない施設でございます。流れないという事がきちんと証明されるからこそ建てられるという施設になっておりまして。

檜 町：それは信用できません。

天理市：環境影響調査というのを4年かけてやると、こういう施設を造った場合、どういふ影響を及ぼすのかと、調査をきっちりとした上で、今仰ったような害が出ないような施設であるというような形で造っていくという事でございます。ご心配されるのは、よく分かります。

檜 町：そんな安全な物やったら、又、他所で考えてもらったらよろしいやん。

天理市：その要素だけで物を決めていっているのでは無いという事です。確かに必要な施設やいう認識は皆さん持って頂いておると思うんですけど、いざ来るとなれば当然両手あげて賛成して頂けるとは思って無いですけども、先程の交通状況等も含めてですね、広域でやるとなれば、条件が限られてくるという部分もありまして、たまたま用地としてここに立派な用地がありますので、これを利用して頂きたいというのが天理市の考え方でございます。当然地元では、色んなご心配されると思います。その心配が無いように、今後施設についても、環境についても、皆さんに充分納得して頂けるよう、説明をさせて頂きたいと思ひます。だから、他でと言われましても、なかなかそういう場所もございませんので・・・。

檜 町：天理市広いですよ。

天理市：広いですけども・・・。

檜 町：そこを、考えてもらったら。

天理市：そこを加味した上で、今から地権者きちっとまとめていく・・・。

檜 町：檜川の上流で施設を造ってというのは、やはり反対です。

天理市：それは今の施設も、大和川の近くにあたりとか、全国的に川の近くにこの施設というのは、ごみ処理施設というのは、実際にある施設なんです。

檜 町：大和川辺りは、流れる量も多いし、水が途切れるような川ではない。

天理市：私共として、その実際水が汚れるというような事で、農家の皆さんにご迷惑をおかけし、水利権も侵す事になるので、それは出来ません。ですが、今、色んな科学的なデータ上ですね、汚染を殆どしないという物でございます。

檜 町：そんな事信用でけへんがな。こういう施設、迷惑施設であり、嫌悪施設であり、危機施設であり、これはパソコンでも出てくる。それで自分の裏庭にこんなポンと建てられたら、市長さんだって、いいですよとは言わないでしょ。自分の裏庭にこんなあったら、清掃工場がある日突然建った時に、だからこういう物については、まず、候補地がこれやと、お前らこれで納得してくれというような説明会になっとるんですね。じゃなくて、嘉幡のあそこの施設が老朽化してきたと、そして従前のここではどうしても建て替え出来ないねと、従って何か所か候補地を選択したと、例えば4カ所と、武蔵野センターやったらそれですわ。4カ所位候補地選定し、色々検討して、ここでは、環境に詳しい人が入った協議会で最終的に決定していった。

天理市：それは自治体によって、色々なケースがあるんですけども。

檜 町：一番大事なものはね、それは、事前に何故ここに決まったのかと、手続き、過程というのがもの凄く大事な事です、行政の中では。ポンと一方的に、ここですよというような事言われたら、やはりここで環境に詳しい人とかも入れて、色々やって、そしたらここが一番最適やという結論に達しましたと、従って、これをやりましたと、この武蔵野市のこれ読んでみましたら、最初は、市長が市営プール用地として議会で発表して、周辺自治会に説明会を開催した。しかし住民は突然の決定に反発し、白紙に戻した上で市民参加による用地の洗い出しをやり直しました。その後も市長さん代わられて、1979年7月に新市長が前市長の決定を凍結し、改めて市民参加で用地選考を試みる事にした。そして従前から設置されていた清掃対策審議委員会、これは学識経験者、市民団体代表からなる14名で構成されている。これが市民の意見を聞きながら議論を行い、候補地を4カ所の公有地に絞り込み、武蔵野市クリーンセンター特別市民の会設置を提案した。この委員会は4候補地の住民2名、一般住民2名、専門家11名、計35名は10カ月間25回の会合を重ね、市営総合グラウンドを最も慣用性の高い場所として選定した。これを受けて市営グラウンド周辺住民との話し合いを進め、一部反対はあったものの、住民の合意を得る事ができた。この武蔵野市の事例は一旦紛争が起こったものの、公正な手続きを取り直した事により、事態を前進させたものであり、手続的公正を強く示すものと言えるだろうという事が書いてあります。そして現在も奈良県内でも葛城市やっていますな。当麻寺から340m、歴史的な文化財を壊すのかというような、やはり土地改良区の理事長も言ってたけど、水蒸気で、全然影響無いと言っても、これも専門家が入ってそこで色々議論して、その人達が大丈夫やと言ったら納得するやろしね。それは行政の側で、あれですよと言われても、なかなか。

天理市：そこは、正に専門家というのが入った状態で、数値を全て吟味して、それがダメであれば建てられないというのが、正に法律の定めであります。その環境影響評価で、それに4年間しっかりかけ、環境評価が正に専門家が入ってダメだという事になれば、今どれだけ私がお説明をさせて頂いて進めるという事になっても、これはもう法律上建てられないという事になり、武蔵野市の事例がより丁寧なやり方で、これは私も重々認識をしておる所です。冒頭にお助け頂きたいと申し上げた点で、これは私が10年前に市長にならせて頂いていたらそうしますが、実際の所では、

もう今の炉が持たなくなる限界という所まで残念ながらほったらかしと言った訳でございます。真正面からこの課題に向けて検証するという事は、昔の事言ってもしょうがないんですけども、それは、なかった状況の中で今、正にその検討の時間を作る為の長寿命化というのをやるのか、何とかご理解頂きながら、環境に対しては、専門家にしっかりと評価してもらうという事を前提とした上で、皆様のご理解を得ていくのか、これによって本当に今から43億円からの予算を追加で投資をしないとイケないのかというような判断を迫られておるという事の中で、それに関して出来る事ならば、やはりこれから色んな耐震、学校施設にしても福祉施設にしても道路の改修補修等々、市としてはやっていかないとあかんと、今現在もう、介護、障害者福祉関係の物も毎年億単位で、伸びたりしている中で、何とか国、県からのお金をかき集めようというような事で、こないだから色んな所でお話しさせて頂いている機会もありますけども、うちは、今の時点でも天理が突っ込もうとしている活性化の何倍かのお金を引っ張ってくる事は、やっているんですけども、非常に今のところ、延命する部分だけで、かけるのであれば、是非それは他の目的に活用させて頂きたいと、ただそれをする為には、残念ながらその武蔵野市のような選ぶ段階からという手順を踏む時間が無いという中で、ただ、環境のものを行政が何も心配ないと言っているから鵜呑みにせよと言うのかと、そこに関しては、そうではございません。それを4年間徹底的に審査される期間があるから、今始めないといけないという事です。

檜 町：ただ市長の今の一番頭の中にあるのは、天理市の財政、非常に苦しいんやと経常比率も100%越えとると、こんな状況の中で何とか県の方からもお金持ってきて、出来るだけ暮らし続けられる町にしていきたいと、これはこれでよく分かるんです。ただ、地元のここへ建てられる、みんなにとってみたら・・・。この地域、檜町になりますよね。

天理市：隣接が檜町と岩屋と混在しています。

檜 町：地元でもやはり、我々ええ思っても、何でこんなん、お前ら何も言わんねと、やはりみんな納得さしていかなあかん。例えば、櫛本の区長会の会長が取りまとめて、区長会の会長がOKと言ったから、これがスーと進む話です。何でも無いですやんか。そして現にあそこの、訴訟起こしとるこんな人60人位で、これ訴訟起こしますわ。これは葛城市ですね。そしたら持ち帰ってきた時に、どうしても反対して来る人、出てくると思うんです。これが、未だに葛城市も出来ていないと。

天理市：葛城市の場合、正に自然公園の中に入っているという事なのでその部分に引っかけて、差し止め請求が起きているんです。

檜 町：こっちに、トウダイジ山古墳もあり、もう一つあります。緑豊かな所で、上の方には天理教の色んな施設、あの天理教の施設、開発する時も地元自治会で・・・たんですよ。そら、こんで結構ですよというような少なくとも、充分こういう委員会とか何か、手続的な問題っていうのは、決定するプロセスっていうのは行政として一番大事やと思うんです。頭ごなしにボンと候補地はここやと。今まで市長が言われていた、例えば福住にしても、造成費も色々かかると、どうしても財源が頭の中であって、あこでやると、もの凄くかかると思う。今の所であれば天理教の土地やからね、まー借りてりゃそんなにかからないと、これが一番大きな理由と違うかなーという気

がします。それは、地元の我々としては、そんなん市の財政も考えてくれよと言われてもなかなか、結構ですと言ひ難い。

天理市：ですからそこについては、もちろん今日の評議会の皆さん、水利の代表の皆さんだけに説明をしたら済むというふうに思っておりませんで、これから私も直に出る形でより広い町内の自治会の皆さんにお話をしていけないといけないというふうに思っております。

檜 町：活断層の事ですが、詳しくは無いんですが、この東山ずっと北、活断層通っているはずなんですが。その辺の地質検査の方は。

天理市：断層帯については、元々ハザードマップというのが県でありまして、近くにこれが走っているというのは事実なんです。阪神淡路大震災の時でも地震によって崩落してというような施設というのはなく、非常に短期間の内に復旧をしているというのが実態でございます。

檜 町：南海トラフというのがテレビでも言っているように、いつ来るという予想は無いですが、かと言って明日に来るかも分からないという話の元で、こういった大きい震災が来た場合に、正にその下を活断層が通っていると、この大きい施設が何らかの形で倒壊したと、それによってこの下の檜町に、近隣下流の和爾があって、まず正面に檜町がある、起こってないので何とも言えないけれども、それが倒壊した場合にこんな恐れがあるんじゃないかという事は想定してますか。一番心配なのはそこなんです。

天理市：そこは正に、最近の施設の耐震についても、他でも指摘受けましたので、今資料作成している所ではあるんですけども、ただ現時点まで日本国内で起きた大規模地震において、これが直ちに崩壊をしているというのはございませんので、こないだの福島原発についても、地震で倒壊したんでは無く、電源が断たれた事によって、中の放射能がと・・・で、水蒸気爆発が起きてというような形になります。それでいきますと、このクリーンセンターが例えば、直下型地震が本当に起きて、何かあったとして、すぐに爆発するような施設かというのと、それは違いまして、断層帯の上にあるかどうかという事事態が、そもそも、法律上の要件になっておらんのが、そういった事情でございます。

檜 町：もう一点、横に白川池あるんですよ、あれが震災来た時に、丁度北南に堤防があつて、あの堤防が決壊した場合に、あの水が直接檜町に入ってくると、以前から話し聞かされているんです。檜も盆地ですから、もちろん高い所から水が落ちてくるのは当たり前なんですけど、まず直撃して水に浸かるのは檜ですというのが、檜町にとって最悪の想定なんです。今この天理市がクリーンセンター出来ますという事で、初めに資料もらった時にこの地図見たら、横に白川池あるじゃないですか、これが正に南海トラフが起きた場合、無いとはいえ場合によっては、堤防が決壊した時にどんな形の水害、災害が起こり得るだろうというのが、一番怖いんです。

天理市：それは、クリーンセンターがあろうが無かろうが、甚大な被害なので、白川の対策として、うちも考えていかなければいけないと思うんですけど、ただ今回の施設に関しましては、丁度高台になっている所が焼却の一番の施設になっております。白川の所から見ますと、道の所が谷にな

るような形で北に向けて下がっているような形になるので、白川の南西の所に、これは位置しています。地形もそこに濁流が行って、迂回をしてくる事はちょっと考え難いかなーと、本当にそういう極限状態になってしまえば、市としてクリーンセンターがどうかこうとかと言う以前の問題として、甚大な状況なのでなかなか、そのレベルまで物事を言い始めると、ものが進まないかなと、本当に極限状態なので、そこに関してはもちろん地盤が緩いとかではいけないし、又きちんと建物自体耐震性が担保されるという所については、皆さんにきちんとご説明をしていかないといけないと思っております。

檜 町：今の嘉幡の処理場、修繕してやけども、一度聞いた事があるが、あの施設拡張してするという案は無かったんですか。

天理市：それは、建物的に不可能かどうかと言われれば、地権者が小島、合場の方に相当伸びる形で応じて頂くという事であれば、不可能では無い訳で、非常に難しい状態です。今までのクリーンセンターをメインにする検討もありまして、そこがご同意頂く中で進めていく選択としても難しいし、又今後、広域を進めて行きたいとする上で非常に立地上、24号線沿いではありますけども、交通量が元々多い所です。何とかこちらの方でご理解頂ければありがたいなど、少なくとも今の施設自体の敷地は、全く建たないんです。一端潰して、更地にして建て直すという事が出来ませんので、それをする為には、この建設に掛かっている数年の期間ごみ処理出来ないという事になってしまう訳です。

檜 町：それは、経過からすれば、ここへこの案が浮上する決定じゃないですけども、この案が起こる以前に、経過的には、福住も色々仰ったんで、分かるんですけども修繕、土地の買収から始まって、稼働しながら必要な土地を確保してやるという事は、前にここに施設を造る時に、色んな問題があったと思うんですけども、あそこの・・・理解すれば、そういう点では、かなり無理だと、同意を得るのは無理だと。

天理市：検討した上で、非常に困難であろうと、又運用面でも、そんなに利便性が高い場所では無いと。

檜 町：ルートですね。

天理市：はい、ルートです。

檜 町：それは、一度検討なされた訳ですね。

天理市：それは、ずーっと検討はしていた、ただそこに、外部の行政以外の皆さんが関与する形での比較検証があったかという事になると、それはあったわけではありません。その点については、本来であれば、もっと丁寧なやり方も、せめて5年くらい違っておれば、やり方としてあったなど、いうふうに思う訳でなんですが、今回については結局私が主にさせて頂きました。実際にこれは現実可能に延命とか、新築とかいう事が本当に出来るのか、予算はどうなっているのか、これまでしないでどういった候補地が検討されてきたのかという事をようやく、今事務の方とも意見交換していく事が出来まして、そこで出てきた中で、まず地権者の方と全く折り合いがつかなければ

ば、どれだけ地元と話しても、又公有地だったら別なんですけども、折角の合意をダメですと言われれば前へ進めませんので、天理教本部の方と会合をさせて頂いて、地権者が偶然天理教だったと言うだけなんですけども、地権者の方とお話をしていく中で借地という事でいいですよと言う判断を頂いたという事です。何とか地元の皆さんにご理解を得ていくべく、動いて行こうかという流れになった訳です。実際の所、市内で適地かと言われると、この期間中に、この広さの場所で運用が出来るという事になると、何とかご理解頂きたい。

檜 町：まー仰って頂いた要点は、ルートの問題はさておき、耐久性の問題がかなり緊急を要すると。

天理市：そこは時間的な要素としてございます。

檜 町：現在稼働中の修繕、土地の理解を得て、拡張して新しい施設にするという時間が無いという事です。

天理市：それと共に、田原本との境になっておりまして、田原本の方からすれば、全く自分達に関係ない状況の中で、自分が出すごみでもない物が迷惑になるという中で、ずっとずっと出て行けという話は、実際問題あったわけでございます。今の施設は、先程申しましたように、水蒸気ですが、世の中にはダイオキシンという物が認識されてきた時には、ワーッと騒ぎになって、地元には、補償費等もその時に発生しましたといったところ長寿命化の事を持ち出す事も困難なのが、特に田原本方面とかの関係でもあったので、これを今、周りを買って進めていくという事は実現可能性からした時に、時間の事から考え併せますと難しい。その為に、少なくとも長寿命化をしないといけない。長寿命化という事自体非常に紛糾するという事です。

檜 町：駐車場とか、駐車スペースとか、割とごっついスペースありませんか。あっちのスペースですという事は出来ないんですか。

天理市：今の敷地が1万2千㎡で、その内完全にぼっかり空いたスペースというのは・・・平成12年にリサイクルプラザを建てるのに、交渉されて後ろを買い増して、大きなリサイクルセンターを建てる計画があったんですけども、周辺の反対と、地権者の同意が得られないという事で断念したという経緯があります。

檜 町：今の嘉幡町の所、今度新しいクリーンセンター出来ましたら、あそこは、今後どのように運用されるのか。

天理市：これはまだ、正式な決定という事ではありませんが、あそこは市内でも残り少ない準工業地帯という企業立地も出来る所です。目の前に光洋サーモという一番天理の中では法人税も納めて頂いている所ですけども、仮にならして民間企業誘致という事では、充分可能な所と思っております。今の時点では、こうしますと決めているのではございません。

檜 町：話は分かるが、あそこに、天理市と三宅、川西が来てるんですか。

天理市：三宅、川西、山添です。

檜 町：今後、またここにも同じ市が来られるんですか。

天理市：そこに名阪沿いの町村の中で一緒にやりたいという所が出てきた場合は、一緒にやらせて頂けると。広域化する事によっての利便性というか、県全体としての大変ありがたい状況になると。

檜 町：あそこに奈良県の産廃の施設があると・・・。五ヶ谷、丁度天理市との境です。岩屋とか相当反対されたとか。

天理市：灰の埋立です。産廃ではなく、焼却灰の埋立地です。埋める物は元々ごみだった物を埋めるんで、確かに土にというような、より出やすいんですけど。

檜 町：何であの辺りで、みんな集中してくるのかなー。まあ近所のこの辺りに建てとこかと、そこが候補地というのがもっとあったやろ。もし嘉幡の所でした時には、あの地元として何らかの配分的な利益というのがあって、それが問題になったという事は無いんですか。

天理市：今の時代は、お金で何か払うというのは、もう説明がつかない時代でございます。

檜 町：何か、周辺で地価が下がるから当然固定資産税は減免するとか、そんな措置は講じて当たり前と違いますか。そんなん当たり前と思うんですよ。そこへ持ってこられたら、周辺の地価下がりますやんか、それは固定資産税減免しますよと、そんなんやっているところあるんですか。

天理市：実際、路線価等々のところ、別の所でも指摘受けまして、実際民間の住宅にすぐ近くに立地するという所もありますから、その事例をしっかりと、今、調査しようというところですけども、周りをインフラ整備だとか、お湯だったり、熱源が出来ますんで、それが地域の皆さんの生活向上につながるような物を合わせて造っていくという事は、これは多くの自治体でございます。どういった例があるのかというのは、これからご相談していきたいと思えます。県の方も考えていきたいというような事を言っている状況です。

檜 町：やはり迷惑被る人・・・やからねー。やはり恩恵も利便もねー。

天理市：何かプラスになるようなものを合わせて考えていくというのは、重要であると思っております。

檜 町：それが嘉幡の時に一つの要因になっているというような話も、ちょっと聞いた事もある。今じゃ無いんですけども。

天理市：お金ですね。それから名目は、当時はダイオキシンのが続いているんです。

檜 町：そういう事が許された時代という事ですかねー。そういうのは地元がしんどいから、他のどっかでやらんなあかん話、だから自分達の出したごみは、自分達で本来処分していかなんあかんか

ら、そこで、受任してくれている人に対して。

檜 町：それは社会性のある話やろ。沖縄でもそうですわな。何でこんな悪い・・・。

天理市：せっかく熱も出る、お湯も出る、そういった事をどうすれば地元の色々な取り組んで頂いて皆さんに供給出来るのか、今、研究しております。これからの説明会の中で、ご要望も頂きながら、これからお話ししていきたいと思えます。これを県と市の連携協定というのを結ばせて頂いている状況なんです。地元プラスになるものを県としても考えていくという所、追加項目として入れていけたらと思っているんで、実際に稼働まで早くても9年、建てるまででも5年ありますから、アセスメントがちゃんと出来ないと、繰り返しになりますんで、この期間にこういうのがあればいいなと、何かハウスを運営される上で熱が助かるようなものが来るだとか、そういった物も運用として充分可能でございます。

檜 町：嘉幡にあるごみ処理場、そこを考えていつもらったらどうですか。嘉幡の近くでいい返事もらえへんだから、こっちへ来るって、それはそういう事では無いと思う。もっと努力して、嘉幡の方へ行ってもらったら、43億もかけて嘉幡解きほぐしたらよろしいやん。

天理市：今現在、稼働している以上に、土地を確保する事自体、まず持って非常に困難であると。あの辺り24,000㎡をとというのは、場所としても・・・。

檜 町：分離してもよろしいやん。施設を分離したら、そこを何とか考えて、こっち持ってこんど。

天理市：それは、運用の点から言って、その・・・。

檜 町：元々そこにあったやつやなー。

天理市：無いと運営できない。関連として一体となっている訳で、どんな他の製造業のプラントでもそうだと思うんですけども、なかなか部品を切り分けてと言うのが・・・。

檜 町：何も天理教が土地あるから、こっちへ来るわって、そんなん、どういうふうに考えてるのか。

天理市：そういう事だけでは無いんです。地権者の理解を得るといのがどうしても必要になってくると、実際の運営、収集して奈良全体で非効率なごみの処理というのを、しっかりやっていくのを、名阪から非常に近い場所でインターから降りてすぐで、そことの間には交通量の点でもご迷惑をおかけする事はなく済むというのが理由でございます。

檜 町：今、名阪から近いという事、又これが仮に田舎であっても、各個人が持っておれば、それは土地を買収するだけでも大変と、それはよく分かる。天理教があつて、1つだと、しかし福住インターの近くに、もう天理が以前に工業団地にするんだと言って、えろ買い込んだ土地が広い所あります。あそこは福住のインターから非常に近いですよ。そして、はっきり言って天理市が持ちかねているでしょ。毎年何億円か知らんけど払ったりして、だからあそこを利用する。あそこだ

ったら住民多少おるかも知らんけど、こちらの下流の人口から考えたら、向こうは、ほんのわずかな戸数しかありませんし、使わせて頂きやすいという事はあると思いますが、市が実際に取得して持っている、あそこ利用するという事は出来ないんですか。

天理市：そこが正に、今回太陽光パネルで今賃貸をさせて頂いている所で、既に契約も終わった時点です。今まで塩漬けで持ち腐れになっていたのも、企業は来ない、何故来ないかというと、不便であるというのと造成にももの凄くお金がかかるというのが初期・・・。

檜 町：名阪から近いから、こっちへ運ぶんだったらそんな不便考えられないですね。

天理市：初期投資をしてまでも、あそこを使う事はなく、墓場の計画あったのも成立しなかった場所で、ずっと金食い虫やったんで、せめてそれだったら、貸して賃料でせめて年分でも取り戻そうという流れがあって、契約の所まで行っております。で、実際問題今は、もはや・・・。

檜 町：もうちょっと、早かったら良かったんやなー。

天理市：あそこは、もの凄い斜面になっている所で造成にお金がかかると。

檜 町：ある程度、大分造成してますやん。

天理市：いやー、してないですよ。それと、下流が桜井市になり、その辺の説明というのも当然必要になってきますので、本来は用地の取得から場所の選定からですね、丁寧に理解を持って決めていくのが本来だと思うんですけど、果たして、それを持ったからといって決められるかと言うのは、難しい問題だと思う。市長が来られて色々、焼却場の検討された中で9年間は何とか、誤魔化しながらも持つであろうけども、先になると、炉が持たないと、その時には莫大なお金がかかるという事で、天理市にとっても安価で、条件的にも一番適している場所が、ここだと事なんです。

檜 町：その中で、もうここに決まってるみたいなのにしか取れないんで、今まで話を聞いてたら、嘉幡の所は修繕難しいと、福住ではそういう所ではどうしてもと仰るんですが、逆に言えば、納得させて頂きたいと。どういう方法を検討されて、どういう経緯でここが1番だと判断されたかと、その検討の経過を説明して頂きたい。

天理市：まず、田原本町と隣接しているので、武蔵ですね、平成14年位ですが、田原本町のクリーンセンターが非常に老朽化して出ていけと言われていた状態で、天理市と一緒に武蔵の辺で出来ないかという話があったんです。平成14年ですので、うちのクリーンセンターの焼却炉がダイオキシン対策して、平成12年に全部入れ替えたばかりでした。田原本町と一緒に武蔵の周辺でやるというには時期がずれてしまって、田原本町は御所市、五條市と組まれました。そもそも武蔵に場所が無いんです。その辺は武蔵の周辺というだけで、田原本町内でも出来るんじゃないかという話がありました。それと安堵町の今のクリーンセンターも、共同で出来ないかという事を検討させて頂きました。ご承知の通り大和川が横に流れてまして、この前の大雨で水没したと、水が来たらクリーンセンター自体も助かって、そこへ行く道が水没してしまったらどうしようも無い

ので、安堵町とも出来ない。施設が残ってもそこに辿り着けない。・・・郡山市と一緒に出来ないかと検討させて頂いたんです。郡山市の隣に九条公園があつて、その隣に土地が空いている所なんですけど、旧来郡山市で焼却した灰をそこに埋めていた所で、今廃棄物処理法が変わって、灰の埋めている所には、建物は基本的に建てられないという事で郡山市とは断念。郡山、今53億かけて長寿命化して、ああ困ったと言っている状況です。福住は、今市長、川口が説明したとおり。この櫛本周辺でも3カ所程度ピックアップさせてもらったんですけど、自然公園法、自然公園の中にあつて、新設はダメだと、葛城市の場合は旧の炉があつたので、それを今、法律上出来るか、出来ないかで訴訟起こしている、新となれば全然ダメと、又その白川池の上流になると、もつともつとダメという事で、櫛本周辺はもうダメになった、嘉幡がダメというのは先程市長が言ったように当初リサイクルプラザを計画した経緯があるんですけど、結局買い増しは、田原本町の反対が非常に強くて、この施設は昭和57年に建って、一端敷地内に移動しているんですね、だから40から50年近く嘉幡町でずっとやらして頂いている物で、そこを又、買い増しして後、20年、30年とずっと延ばしていくと、非常に行政としても困難であるというのが現状です。

櫛 町：市長さん、こういう数字いっぱい書いてあるけど、我々わからへんけど、国の環境に合格しているような事書いてあるけど、悪い事は書いてへんわなー。

天理市：実際がそうなので。

櫛 町：ええ事ばかり書いたる。

天理市：実際がそうなので、悪い事隠していい事を書いているという事は無いんです。

櫛 町：それは我々には信用できんけどな、一応あの場所には絶対反対ですわねん。他所を考えて欲しい。それだけです。

天理市：そう言われましても、なかなか、そう動けないという事で・・・。

櫛 町：そんなん、どうやって、ほんまの話・・・。

天理市：と言われましても、市としてはやはり・・・。

櫛 町：市長さんも就任して1年半、短いし、ここ考えましたと言われても、地理的にもわからへんような所やのに。

天理市：私の任期は関係なく、本来であればもっと早くしっかり取り込んで、市全体の問題ですので、きちっと対応取れるかどうか・・・。

櫛 町：ゆっくり考えて欲しいです。

天理市：ゆっくり考えると、それが40数億円掛かってしまつて、これは市の今運営を任してもらって

る身としては、そういった判断というのは出来ない。

檜 町：せやけど、我々も孫の代まで、汚点残す事できへんよって。

天理市：ですのでそれについては、ご心配が環境という事で・・・。

檜 町：その話は他所で考えて欲しいですわ。絶対ここは反対です。

天理市：その懸念が環境でという事であるとするならば、4年間で、その専門家入った環境評価というのが行われて、その結果がダメだったら、結果も公表も当然させて頂く訳で、それが基準に適合しないという事になれば、やめるとお約束させて頂きます。絶対出来るかというそれはやめま
す。それは、法律上建てられないので私がやると言ってもそれは出来ないのです。

檜 町：やめると言っても、次どうなるやわからへん。

天理市：それはただ実際に、今のクリーンセンターの施設で、環境影響評価において、はねられるという事が無いからこういう事を申し上げているんです。環境影響評価が適合しないと建てられないという事なので・・・。

檜 町：まー、一応もっと数カ所探して下さい。

天理市：申し訳ございませんが、それは困難であると。

檜 町：天理市は広い、山もありゃー・・・。何か唐突な話なんですわ。話が
大分前からあったみたいやけど、段階がね、いきなり文面をパッと出た時に、もうここで場所決まっているやんって、我々自身が、この中で赤線引いた地図をパッと見て、確かに色んな声出ます。リスクが大きいですよ。スタートラインからもうちょっと遡った時点でスタートしてほしかったというのが気持ちやな。

天理市：そのお気持ちは、非常に良く理解しておるつもりでございます。

檜 町：この話は
大分前から計画あったと、しかしパッと言われたが、話をほったらかしにしてはったん事実やし、どうのこうの言っても仕方ないし、スタートラインにしてみたら、リスクが大きいのは確かです。

天理市：選択過程からもっと課題をみた上で取り組んできていけば、もう少し違う形で最初の相談になっておる訳でございますが、これまで違った、事務方の中での検討にとどまってしまったと、5年間現状の所でやった上で皆様のご理解を得て進んでいくといったプロセスが取れば、気持ちの上で楽ですし、より丁寧にやれたというふうに思うわけなんです。

檜 町：今無償で、ごみ取ってもらっている、ごみに対して理解は凄く高い、しかし何かにしてもこのスタートラインで気持ちも・・・と思うんですよ。

天理市：これをやっていく上で建っていくまでは、どう短くても5年はあるわけで、そこでしっかり我々は皆さんのご懸念、心配あるいは、水路が走っている所、どういう形でやるのか、ほんまにそのごみの置いてある所と、雨水が接地しないような形で、出来るのか、今環境の専門家の方が入って、どういう評価やっているとというような事を、丁寧にやらせて頂くという事で、何とか、もうお助け頂きたいと。

檜 町：この話、現段階でね、天理9校区、今の段階で各自治体しかこの話知らないのですか。

天理市：今の段階で申しますと、話しているのが檜の本日含めて、六総に同様に役員の方に説明会やらして頂いて、和爾の方でもやらして頂いて、樺本の校区会の方では、区長会長やらして頂いて、これから樺本校区内の他の所の町に於いても説明会をやっているという事、山の辺の方については、一番面積的に大きいのは岩屋なので、岩屋については、区長さんにお話しして、説明会の段取りというのをやっている所です。それと山の辺校区の区長さん方にはしております。二階堂については、まだ丸8年は嘉幡のクリーンセンターを使わせていただく中で、どうするんだと、長寿命化という話になっていたがどうなるんだという事もありますんで、今の点では校区の三役の方にまず、樺本の方に、樺本の皆さんにこういった形でのご相談をさせていただいているというのが今の市内での説明に状況でございます。

檜 町：例えば、他の校区へと六総なんかはどう言ってはりますの。ええ言ってはりますの。

天理市：ええとか言うよりも、唐突感というのが当然ご指摘頂きました。本当に水はどうか、地震はどうか、2回、3回と説明会を重ねる中で、もっとより具体的な説明をしていきたいと思います、又水利、水路の部分、実際の状況立ち入ってみせて頂くという状況もあって、こういう配慮もしないといけないなどやって来ているので、進めて行く上で地域との対話をしながら、ご理解頂けるような形で施設を造っていかうという事で進んでいる状況です。

檜 町：これはね、ここが最だという事を・・・するような事を作つとかなないと、市は色んな事やったけど最適やと言って、口で言われているだけやったら、みんなの意見を聞いてやった、学識経験者も含めて、環境に詳しい人にも入って、色々やったけど、福住も色々やられましたやんか、それでやはりここがええというのが出さんと、しんどいのと違うかなー。いつの間にか、こんなにごっつい問題ですやんか、センターみたいなね。

天理市：そこに、例えば区長連合会の他の校区の皆さん何人か入っていたりとか、どこかの大学の先生が入っていらっしやった結果が、この場所だったという事になった時に、皆さんの中での、ご懸念だったりっていうのが決定的に変わってくるかなと言うと・・・。

檜 町：一般で公募なんかして、色んないますわ、環境問題とにかく反対されるそんな人、参加してもらって、意見言ってもらって、それで決めて行かれたらね、行政も説明責任も大事やけども手続きも凄く大事。

天理市：仰っている事は、正にその通りでございまして、法律上の条件では無いんです。だからといって、法律上いらんから、ぶっ飛ばして押しつけければいいと、それが民主主義のあるべき姿だと思っていないので、今日こういう形でご説明させて頂いているのは是非ご理解下さい。一番丁寧な形でやる為には、その手続きを踏む額として、40億円を越えるお金を出すという判断を私としては、しないといけない訳です。そうなった時に・・・。

檜 町：本当に40億円出さなんかどうかやな。

天理市：これは見積ってきた中で出てきた数字です。

檜 町：例えば専門家に見てもらって、この数字が本当に正しいのか、40億円掛かると言っておられる、しかしこういうやり方だったら10億円でいけるやないかと。

天理市：それは学校については確かに前栽小学校を43億掛かって5年で造る物を、1年半で25億円、18億円下げました。そういった事は他の施設でもあり得るんですけども、ただごみの施設というのはメーカーの数が極めて限られており、かつ元々建てた炉の部品じゃないと使えないという、値段の幅が働かない世界なので、実際郡山が今、人口規模でちょっと多いですが9万人、天理市で7万人ですが、郡山市で53億円でした。これは他の自治体例を見ても43億円が10億円という事はございません。やはり43億円が42、41、45億、その辺りの差というのは出て参ります。今のレベルで運用をしていくには、環境の評価を4年やるからなんですけども、今のレベルの修繕する限界でございます。

檜 町：環境のアセスにして、おそらくクリアする問題だと思います。それに合わせたような基準以下にすれば。ただ水蒸気で何も影響ないと言うけれど、それが10年、100年積もり積もってきて、それがこの川に流れてやって来た時、下でみんな耕作していますねん。水使って、それ100%影響ないかと言うと、誰も保証出来ませんわ。環境基準は一定の基準であって、それが果たして100年後ず一っと積もっても誰もそんな事言えません。環境に絶対影響ないと、それと土地改良区の理事長なんかも心配してると思います。

天理市：それについては既に稼働している類似の施設、実際どうであるのかについて、実際見て頂く機会をうちの方で作らせて頂くというのが必須だと思っております。マンションや市役所の目の前という施設がいっぱい出てきております。

檜 町：この池は、外れますねんね。

天理市：北側の池というのが、入れておりません。

檜 町：ここにある私有地も、外れているんですか。

天理市：私有地に関しては、これからの交渉で、実際に共有地で19人は入っているようなものがあります。相続関係によって、登記上混乱しているような場所が入っています。それは実際相続されて

いる方に当たっていった理解を得られれば、土地としてより使いやすくなるので、万が一それが難しいという事になればその民地の所は外していく事になります。

檜 町：そこは檜ですか、和爾ですか、櫟本ですか。

天理市：共有地は和爾です。一部檜の人です。個人名があるので、遠くからしかお見せできないが、ここで黄色く囲っているこの池の東側の道沿いの帯状の所が民有地となっております。そこを除いた所を、運用可能な形で考えざるを得ないかなど。

檜 町：そういう変形になっても計画通りの・・・。

天理市：というのが、こちらの高台に焼却の一番大きな固まりの物を置く場所になって、こちらは紙資源とか、金属関係とかの物を置く、屋根付き、床がちゃんとある状態で置いておく倉庫というか、ストックヤードと呼んでいる所です。それについては、ここから何キロも離れた所では機能しないが、隣接で配置を調整というのは可能になっています。まとまった高台の所が本丸になります。

檜 町：その高台と云ったら、ズーっと一面下まで、檜川まで雨水が落ちるといった地形ですね。

天理市：クチナシ池からですね。

檜 町：櫟本に焼却施設というのは見た感じ、煙突立ってですね、さっき水蒸気だと仰っているんですけども、一番の影響、精神的にも用地からのダイオキシンは無いと言うけれど、影響受けるのはシャープ、隣接の白川台の住民、まともに煙突見えるんですよ。そちらには聞いておられるのか。

天理市：高品の方に関しては六総の役員の方の皆さんに対する説明会というような形で、これから更により幅広い皆さんにということになってきます。シャープについては、我々も先ず地元の方に話をし、それから持って行こうという状況です。ただ、シャープについては、ご自身の所が元々製造業の理系的な目線を持っていらっしゃる所なので、今の施設がどういう物なのかという事もございましょうからきちっと説明していくという事だと思っています。

檜 町：白川台の住宅、住民は六総の代表者のお話の時に出ておられるとすれば、その辺りは。

天理市：3月に六総の方から申し出がありまして、各代表の方を何人か、総勢28名、櫟本公民館へ集まってもらって、同じ話を聞いて頂いて、その後、又向こうで調整してもらって、今後住民説明会を進めるので、呼びかけがあった時は対応してくれというようにお聞きし、調整している所です。

檜 町：対応はこれからですか。

天理市：住民説明会で幅広く、かなりの方に来てもらうので、小学校の体育館だとかですとか、調整を六総の代表者にお任せしている状況です。こちらについては返答があり次第、調整して行かせて頂く。その時は順番に回らして頂いて、出ている意見も含めて回答、説明させて頂くよう、今

色々調べている所です。

檜 町：具体的に前回檜町の農家組合等の役員、こういう関係の説明というのは、和爾町、檜町、それ以外は。

天理市：今、六総とそこまでです。

檜 町：六総は、まだ区長さんだけ。

天理市：区長さんだけでなく、他何人か。

檜 町：農家組合的な人も来ていたか。

天理市：分からないですけども、三役さんとか、そういった方だと思います。農家も来ておられます。

檜 町：農家団体の人が行ったと言っていました。水の影響は、水利権のある和爾町、それと檜が一番影響を受ける。和爾は一部の田んぼだけ。これ、ここへ流れて行ったら、和爾これ灌漑用水に使っていませんか。だから、もの凄い影響あるという事なんや。

天理市：水利権として自治体は、和爾だと認識している。

檜 町：和爾の皆さんはどうですか。

天理市：和爾の皆さんは、引き続き水利、雨水の流域等々について、どうなのかという質問がありました。その雨について、雨の水対策をしっかりと、汚染というものの無いよう設計をしっかりとやらせて頂くと言わせて頂いているんです。それを口で言って直ぐにという訳には当然いきませんので、こちらで資料を作った上で、今後の第2回以降の説明会をさせて頂く想定です。どうしてもこれは、理論の部分と感情の部分があり、そこについては対話を積み重ねて行くという形で。

檜 町：広域化という事で、実際問題、今嘉幡使っている市町村、他いっぱい集めるつもりされていますよね。それによってコストダウンをしようと思っていると。交通量は3倍くらい。

天理市：2倍から3倍以内の間だと。

檜 町：そうなると、周辺のごみの全部を天理市の方で賄うというふうにお考えですか。

天理市：その事務組合を組んだ相手とは、そういう形になりますが、当然それは、賄うというのは、経費負担というのが、人手の所も含めてみんなで負担するというような事になりますし、あるいは地域の為にプラスになるようなものをという事になった場合には、当然一緒にやって費用負担もしていくという形です。

檜 町：そういう事ですね。だからより多くのごみがここへ流れ込む訳なんですよ。

天理市：分量としては、そういう事になります。

檜 町：交通量に関して、4時間の範囲だと仰っていましたが、流れ込むというか搬入の時間帯はもっと短い時間で集中するという事は無いのか。

天理市：それは分けるという、そもそも何時から何時に来るというのを当初の・・・。

檜 町：分散して考えているという意味。分散してその時間に集中しないように考えておられるとか。

天理市：今日、出させて頂いたのは1日当たりの車両台数を時間で単純に割った台数です。

檜 町：なんで4時間で割っている。

天理市：それは運用の所なり、一般ドライバーであれば調整出来ないんですけども、パッカー車で持ってくる人については、こういう時間帯ですということを規則化する事は出来ますので。

檜 町：はい、分かりました。そして広域になればなるほど、個人の持ち込みも増えていくわけですか。

天理市：個人の持ち込みを認めるかどうかについては、積替施設を造って頂かないといけない。うちのパッカー車で行くのが、福住が大変と言っているのに、何故もっと遠い所から持ってくると思うかもしれないが、それは今、斑鳩町が三重に持って行っていますが、一旦自分の所のパッカー車を集めて積替施設に入れるんです。それを大きな車に乗せ替えて遠くの方に持って行くという事です。一般の持ち込みについても、その積替施設の方に持って行く事になります。

檜 町：直接搬入というのは出来ない。

天理市：最初の時にルールを作っておくか、規約の問題になり、当然我々として地元へ負担が極力掛からないように、原則として積替施設をお願いしたい。実際に組む相手と調整というような形です。

檜 町：嘉幡は、一部事務組合でやっておられますか。

天理市：いいえ違います。業務委託という形を採ってしまして、当然持ち込み量であるとか、施設が建っている間は相当の負担はきちっと頂いているんです。

檜 町：今後は。

天理市：やるとしたら事務組合になります。

檜 町：嘉幡の用地は何処になります。

天理市：嘉幡は市です。天理市の用地です。

檜 町：それで他の町村どんな形で受け入れておられますの。

天理市：今は川西、三宅、山添だけです。一番大きい川西でも、うちで言ったら校区くらいの大きさです。

檜 町：それで土地は市の土地だと。今後一部事務組合でしようとしたら、一部事務組合の名義の土地で、これを借りると。

天理市：そういう事です。

檜 町：自分どこで持つという事出来ない。例えば福住でやろうとしても、一部事務組合にしたら天理がそれを全部・・・一部事務組合で買うんですか。

天理市：それは天理市の所有地の事、一部事務組合が使うという事も、やり方は色々。消防署建て替えたが、山辺広域の消防本部は一部事務組合でしたけども、底地は天理市の名義でした。

檜 町：そしたら今後、この嘉幡の所無くなったら市としても凄いい財源に成りますね。売却されたら。

天理市：まあ売却。取壊料があるので、今の施設を潰さないといけないので。

檜 町：それと、何があそこにあるか分からないという問題もある。長いことそこでやって来たから、物が浸み込んで来たとか。

天理市：そういう物が浸み込んだという・・・。

檜 町：そしたら、それなりにそこは、もしいらなくなったら、結構・・・。

天理市：財源はそんなに。記憶が定かでないが、企業を誘致するという、企業立地をして雇用を生むかという事に関して言えば、市内では、非常に少なくなって来ている工場が建てられる場所なので、そこは使えます。

檜 町：これは借地ですか。

天理市：今回の件、借地という事でご相談を。

檜 町：天理教からの借地。

天理市：はい。先程の質問、公示価格で単純に言えば8億5千万円位です。その取壊料が大分掛かる

と、例えば今の市立病院でも3、4億と見込んで、潰せば半分以上は消えるかなと。

檜 町：宗教法人は借地という事に成れば、地代は天理教に入る訳ですね。それは営利目的と考えられないのか。

天理市：宗教法人ですけれども、宗教活動の部分は非課税です。今もいっぱい土地持っていて、貸したりもしているものとかについては、同様に税金納めていただいています。

檜 町：固定資産税は徴収してられるんですね。

天理市：そうです。宗教の行為だから税金がかからないもの等、天理教本部が持つてはったら全部掛からないのでは無い。

檜 町：固定的収益事業という事で、税金を払っておられると思うが、その部分については、固定資産税も収益分として納めておられるんですか。

天理市：収益事業として掛かるのではなくて、宗教目的部分が非課税で、それ以外は、使われていなくても税金はかかってきます。

檜 町：詰所なんかは、一番広い面積で全体の固定資産税掛かってないと、宗教施設と見なされて掛かってないと、その面積一番大きいですか。詰所敷地。

天理市：詰所敷地、市内のもの全部合わせれば、そこそこの大きさになると思います。

檜 町：その固定資産税算定すればどの位。

天理市：今、手元に資料無いので今後させていただきます。

檜 町：説明しに来てもらって、一応これで大体理解はしたんですけど、ここへ予定している事は分かりました。

天理市：その上で、皆さんにご心配、お懸念無いように、又最初のスタートが武蔵野市のような形にきれいかかったのが残念ですけど、これからどういうふう実際に、水路の所も含めてやっていくのか、あるいは雨の流れていく所もどういうふうやっていくのか、周辺をどういう形で整備していくのかというところについて、これから皆さんとしっかりご相談していきたいなと思っております。

檜 町：今、1回目で何日か前に役員会で話しをしていたんですけど、最初に話し聞かせてもらって、それから村の方々に発信していく段階が非常に難しいんですよ。どういう方向にどういうふう伝えていくか、我々だけに伝わっても、これで終わりではないので、これから住民の方に話しろしていかなんので、その段階までに、何回かこういう機会を持ってもらいたい。

天理市：それは勿論です。何回でも、その上で皆さんの聞きたいという事を、うちで整理して、幅広い皆さんに説明する機会を設けてという事であれば、場所も例えば、一定の人数になれば学校の体育館とか、そういう場所は、うちの方で準備させていただきます。

檜 町：この次来る時は、また他の予定地も探しといてもらって、その件も話して。ここだけと違って。

天理市：それは現在の選択肢として、困難であろうというのが、申し上げるのが精一杯な状況です。

檜 町：この下の池、小さい池入ってないんですか。

天理市：それは、入れません。それに隣接するこの青い辺りが・・・。

檜 町：住民に説明する場合は、赤線は、池の輪郭にしたがって。

天理市：住民に説明する場合は、修正をさせていただきます。

檜 町：地権者は何人ですか。檜町はいないですね。

天理市：お一人の方が、居住はこちらかなと、個人情報なので、他が入地になっています。台帳上が19名ですけど、この土地は相続でボワーっと分かれているので、今の時点では何人になっているのか、追ってみないと分かりません。

檜 町：そしたら、これを除いた部分で、きちっとした物を、もう1回もらえませんか。

天理市：それは、直ぐに持って来させます。

檜 町：今日このような会合があったという事で、我々だけで聞いておく事は出来ない。みんなに流さなあかんです。

天理市：市行政と申しまして、皆さんの大切なお金を預かって、町を運営する立場であるというふう
に思う中で、時間的な一定の結論がない事には困るといった状況でございます。本当に申し訳
ございませんが、是非お助け頂けますよう、よろしくお願い申し上げます。

檜 町：今後、更に詳細や、また檜だけではいきませんので、区長と連絡取りながら、同じような状態
でやっていかなんと思いますので、檜町の方でどうなるか、又市からどうなのか、これから検討
して、そして住民の方々にも何らかの方法で知らせたいと思います。今日のご苦労様でした。